

2024 年卒業生

奨学生に贈る言葉

A 北海道大学

財団の皆様から頂けるご支援は非常に貴重なものです。

だからこそ、全てを生活や学業における必要経費にまわすのではなく、友人付き合いでの交際費や長期ボランティアの渡航費など、自分のスキルアップのためになる使い方を考えてみるのが良いと思います。

勿論、経済的に厳しくゆとりがないという方もいらっしゃると思いますが、お金を使用することで得られる時期や自分に巡ってくる利潤を熟考する過程自体は、今後大学を卒業し、社会の一員として歩んでいく上での財産となるはずで。

最後になりますが、皆さまの大学生活がより良いものとなるよう、心よりお祈り申し上げます。

B 青山学院大学

皆様には、ぜひ様々なことに挑戦して、悔いの残らない学生生活を送っていただけたらと思います。私自身、学生時代の全てが順風満帆だったとは言えませんが、失敗や成功に関わらず、あらゆる経験に対してやってみて良かったなと感じております。

また人からの誘いやとりとめのない動機から何気なくやってみたマラソン、ロッククライミングなどでさえも新たな人や世界と出会い、足を踏み出してよかったなと思います。

私自身、新型コロナウイルス感染症の影響で約2年間ほど自宅で授業を受ける日々が続きました。その経験を通して時間に有限であること、挑戦したい、やってみてと思ったことを後回しにしないことの大切さを痛感しました。

そして残りの2年間はよりアクティブに動きたいと考え、何事も悩むよりもまずやってみようという姿勢を取るようになっていたら案外面白い発見や学びを得ることができたと感じております。

私自身、元々優柔不断な性格で躊躇してしまうことが多くあります。ですが社会人になったからこの「やってみる」という姿勢を大切にしていきたいと思います。

ぜひ皆さまと一緒に前向きに挑戦を続けていきたいです。

卒業に至るまで、戸田育英財団の皆さまに大変温かくご支援していただき、無事この節目を迎えることが出来ました。

また、交流会や広報誌『KIZUNA～絆』で後輩のご活躍を知り、私自身も刺激をもらい頑張ろうと思うことが何度もありました。

皆さまと直接お話したことはあまりないかもしれませんが、同じ奨学生としてご縁がありましたこと、感謝しております。

皆さまにとって残りの学生生活が実り多きものになりますよう、心より応援しております。

C 青山学院大学

皆さんにアドバイスしたいことが二つあります。

一つ目は勉強方法を身に付けることです。大学でさまざまな授業を受ける機会がありますが、そこで学んだことを必ずこれからの人生で活かすことができるかというところではないかもしれません。ですが、学習をする能力を身につければ必ず将来に役に立ちます。

二つ目は何でもやってみて、大学生活を楽しむことです。これが一番大切です。4年間は長いようで本当に短いです。大学時代にしかできないことが沢山あるので、挑戦する心を持って、大学生活を思いっきり楽しんでください。

D 慶應義塾大学

今大学生活を振り返ると、私は大学生活が自分がしたいことに没頭できる数少ない期間だったと思います。

例えば私は、家族からの理解と支援もあったため学業・インターン・課外活動・アルバイト等様々な場所で自分の興味を探究することが出来ました。もちろん社会人になっても自分の興味ある活動に時間をかけることは出来ますし、社会人にしかない喜びややりがいがあると思います。

しかし大学時代の時間の自由度や複数の組織をある程度覗くことが出来る環境は特別だと感じます。大学時代においても、様々な事情で自分の取り組みたいことに全力で取り組めず歯がゆさを感じるのではないかと思います。

その中でも目の前の事に向き合いつつ、空いた時間に自分の興味のあることに取り組んでみることは将来の糧になるはずですよ。

大学生活は完全に自由というわけではありませんが、社会人と比べ自由度が(特に時間という面で)比較的高い時期だと思います。

可能な限り自分の興味を追求してみてください！

人生で迷うことがあった時に一つの羅針盤になってくれるのではないかと思います。

E 東海大学

大学時代の4年間は長いようで短いものです。学びたいことを積極的に学び、視野を広く行動すると良いと思います。

私は周りにあまり同じ職を志望する人がいなく、少し大変な思いをしましたが、自分がやりたい職業になれるよう努力したことも思い出、力になると思います。

自分の目指すものに向かって頑張ってください。

F 東京大学

大学生というのは人生においてかなり特殊な期間だと思います。大半の大学生は一週間のうち多くの時間が自由時間に相当するものであり、その時間の過ごし方を自分自身で決めることになります。

活力も体力もある10代後半から20代前半のこの時期に何のために多くの自由時間が与えられたのかというのは人によって様々な解釈ができるころだと思いますが、私は個性を伸ばすために与えられた時間なのではないかと考えています。

学校教育によって人としての一般的な成長が得られた高校までとは異なり、大学生は成長の方向を自身で選択できます。

私の場合は自由な時間を利用して経済学やアルゴリズムにおいて他の人が知ることのない深い学びを得て、専門分野である振動情報の社会活動への利用についての研究も一定の成果を出すことができました。

必ずしも学問の枠にとらわれる必要はないと思います。

皆さんも自身が替えの利かない価値を持った存在となるようにぜひ、自由時間を個性を伸ばすために使って行って欲しいです。

G 東京音楽大学

何か一つでもいいので、自分が限界まで頑張ったと言えるような経験をして欲しいです。

たとえその経過が自分の思うような結果で終われなかったとしても、その過程で学べること、感じることは沢山あると思います。

失敗を恐れずに沢山のことにチャレンジしてほしいです。

H 東京農業大学

迷った時にはより沢山のひとと話すことがお薦めです。

私は大学卒業後の進路のことで悩んでいた時期がありました。

自分の人生においてとても大切なことなので絶対に正しい選択をしようとても慎重になってしまいました。私のアルバイト先は年上の方が多かったので、何人かに話しを聞いていただきました。『人生の選択に正解はない。たとえ一番入りたかった企業から内定をもらっても、それが合っているのかは分からない。』というセリフです。

この言葉を聞いて私の心はふっと軽くなりポジティブに考えられるようになれました。特に年上の方は自分よりも長く生きているので経験も沢山あります。

悩んだら一人で抱え込まずに沢山の相談してみましよう。

この戸田育英財団の中にも面白い経験をしていらっしゃる先輩方が沢山なので、このコミュニティを活用しましょう。

I 明治大学

「迷ったらやってみる」これを行うにこしたことはありません。

大学生活は思っている以上にあっという間に過ぎてしまいます。「今はまだ早いかも」「もっと時間があるときに」と後回しにしてしまいがちです。

しかし「次」のタイミングが本当にくるかわかりません。

私が大学生活、後悔をしていることといえば、大学が学生全体で行っている「明治シェイクスピアプロジェクト」に参加しなかったことでした。

コロナの流行など社会的な理由もありましたが、「来年は」と延ばしていくうちに、その機会はどんどん減っていきました。

「次やろう」と引き延ばすことは簡単ですが、学業やその他の活動などやらなければならぬことが減るわけではありません。

「思い立ったら吉日」そう思い、全力で大学生活を過ごしてみてください。

失敗も成功も必ず何かしら得るものがあります。

J 明治大学

“あなたを助けてくれる人は沢山いるので、自分の好きなことに一直線頑張ってください。”

私は奨学金制度がなければ大学に通うことができない家計でした。しかし戸田育英財団様をはじめ、他にも奨学金を頂きながら充実した大学生活を過ごすことが出来ました。

大学ではデータサイエンスが人工知能など大学だからこそ学べることが多く、取りかかった資格も無事取得することができました。また Web デザインにも興味をもち、将来の道もしっかり考えることができました。

これから皆さんは、大学の勉強か就職活動、その他多くのことで大変なことがあると思いますが、助けを求めればたくさんの人があなたに協力してくれると思うので、しっかり弱みを見せて頑張ってください。

K 同志社大学

大学生の4年間はあっという間でした。だからこそ卒業間際にやり残したいことをやるのではなく、一年生の時からやりたいことを全てやって下さい。それでも悔いは残るかもしれませんが、沢山の思い出ができ、価値のある学生生活になると思います。

私自身も戸田育英財団からの奨学金のおかげで、やりたいことを他の学生と大差なくやり遂げることができました。

そんな素晴らしい機会を頂いている皆さまも、目一杯挑戦してたくさんの思い出を作ってください。

上手くいったことも、上手くいかなかったことも、後からみれば全て良い思い出です。

やらないで後悔より、やって後悔です！

ぜひ自分のペースで頑張ってください。応援しています。

L 立命館大学

奨学生の皆さまには、学年が若いうちに様々な人と会って欲しいと思っています。

アルバイトや学業だけでなく、インターンシップやボランティアなど、社会と繋がる手段は多くあると思います。

こうしたツールを積極的に活用して様々な働き方や価値観、考え方に触れていただきたいと思います。

その中で、自分に合ったものは何かを考え、選択していくと充実した将来が見えてくるのではないかと思います。

戸田育英財団には全国の奨学生やOB・OGの方と繋がれる交流会があります。この機会は奨学生である皆様にしか用意されていないものですので、大切にしてください。

最後になりますが、2023年の交流会では、多くの方と交流でき、非常に楽しい時間を過ごせました。本当にありがとうございました。

M 京都大学

奨学生の皆さんに伝えたいことは、大学で得た友人や先輩・後輩との繋がりというのを、継続した方が良いという事です。

親密な間柄になった人から、そこまで親しいとは言い難い関係の人まで様々あると思いますが、同じ大学、学外との交流であれば同じ学生という立場で、フラットに関係性を構築できた期間というのは、今後は稀有なものになります。

是非、かけがえのない関係性を大事にして下さい。

N 筑波大学

交流会の時に奨学生の方々のお話を聞きましたが、ここにいる人たちはみなワクワクする未来を創る若者たちなのだろうと感じました。

宇宙の研究をする方から、スポーツに打ち込む人までとにかく多様な人が集まっています。

どの人の道も僕の芽には輝いて見えています。

これからの日本を、世界を形作っていく仲間として共に頑張りましょう。

個人的には、もっと早く他の奨学生やOBの人たちと交流してお話を聞きたかったと思っています。

様々な分野で活躍する人の姿を見れば、大きな刺激になると思います。

これからは、コロナも落ち着いて交流会も対面で行われると思いますので、その場を有効に活用できればいいのではないかと思います。

○ 筑波大学

大学生活はこれまで経験したことのない、自由度の中で様々な経験を積むことのできる時間です。

学業と向き合い自分の興味、関心を突き詰めることはもちろん、課外活動で何かに熱を注ぐこと、他の人より一足先にビジネスを経験すること、世界に足を踏み出すこと、なんでもどんなことにでも挑戦することができます。

多くの行動を起こすことが学びに繋がります。

ぜひ、勇気をもって様々なことに取り組んでください。

その際には、あなたの挑戦を支えて下さる方々への感謝をお忘れなく。

皆さんが、実りの多い、充実した大学生活を送れることを、心より祈っております。

P 日本女子大学

チャンスは貯蓄できないという事を一番に伝えたいです。

大学生活では、講義やゼミ、サークル活動、ボランティアなど、主体的に選択する機会があります。

だからこそ自分にとって得意あるいは慣れているものに囚われず、あえて困難なものや、未知のものに飛び込むことができます。

又行動範囲が広がる分、様々な出会いも多くあります。

チャンスが来たと思った時に、失敗や挫折を恐れず行動しなければ、一度きりの人生で再び同じチャンスが回ってくる可能性は低いでしょう。

確かにチャンスを手にして努力したことが、必ず報われるとは限りません。

しかし、その結果に絶望せず、のびしろに気づき、また挑戦し続けることで成長できます。

皆さんがチャンスを最大限に生かし、悔いなく学生生活を終わることを願っています。

Q 新潟大学

大学の4年間は思っている以上に短いです。やらなければいけない事と、やりたいことは時に全く両立できなくて、悩む時があると思います。

その中で私は、3年次の頃から自身の中で決めていることがあります。

「今、自分が最高に輝けると思うことを最優先にすること。もし後でその選択が自

分を苦しめることになったとしても、過去の自分をごっかりさせないように、できる限りを尽くすこと。」

これは学生だからこそ成り立って見えていたのかもしれませんが、このおかげで本当に充実した学生生活になりました。

コロナウィルスの影響がおさまりつつあり、行動範囲や実行可能なことの幅が広がってきたとおもいます。

失敗しても学生のうちは思っているより周りが支えになってくれます。

一度限りの人生、自分の人生の主演として最高に輝けるように、少くも我がままに楽しく過ごして下さい。

応援しています。

R 九州工業大学

大学は自由度が高く、身を置く環境や付き合う人を自分自身で選択することができます。

自分が思い描く理想像に近づいていくことのできる期間です。私は4年間で色々な方のお話を聞いて、自分の視野を広げ、自分の理想像をより明確にし、自分の学びたいことや達成したいことに深みをつけ、様々な目標を達成しました。

とても満足した学部生活を送れたと思っています。

色々な分野の人たちの話しを聞くことのできる機会の一つとして戸田育英財団の交流会があると思います。

年に一度ある交流会では、他の奨学生の近況を聞くことで新たな発見があったり、もっと頑張ろうと思ったりと自分自身を見つめ直すきっかけになりました。

大学でも様々な機会があると思いますが、その一つ一つの機会を大事に、楽しんで大学生活を送って下さい！

S 中央大学

後輩の皆様へ

限りある大学生の期間を是非有意義に活用してください。

思う存分勉学に励み、研究に取り組み、多くのことにチャレンジして、友人と苦楽を分かちあう経験は今しかできないと思います。

妥協せずに努力し続けることで、得られる多くの知識や、やり遂げた時に味わうこ

とのできる達成感、応援し支えて下さる方々との出逢いがあります。
自ら道を選び、突き進んだ経験はこの先の人生の糧になります。
周りの方々の感謝を忘れず、一に一日を大切に生きてください。

T 慶應義塾大学 大学院

私が皆さんにお伝えしたいメッセージは、常に余裕を持つことの重要性です。

余裕を持つ手段の例として、物事を期日より少し早めに終わらせておくことか、モノ選びの際に少しでもスペックのいいものを選ぶなど色々ありますが、私たちが利用する奨学金というものも、経済的な余裕を生むことができる素晴らしい手段の一つとして捉えています。

余裕を持つこの恩恵は、新しいチャンスに巡り合える機会をつかむことができる点であると考えています。

人生の中で時間があると言われている大学生であっても、研究か課外活動などで常に忙しいという方も多いと思います。

そうした中で、余裕を持った行動か選択を取ることで、本業に専念しながらも新しいことに挑戦したり、出会う機会などを作りやすくなり、大学生活に付加価値をつけられると思います。

忙しい人ほど、ぜひこの考え方を取り入れてみては如何でしょうか。

U 芝浦工業大学 大学院

私は大学、大学院で様々な挑戦ができたことが一番強みだと思っています。
特に研究室配属してからの3年間は非常に有意義なものとなりました。

私が心掛けていたものは、厳しい環境に身を置くことです。

ただこれは難しい事ではなく日常の些細なことでも大丈夫です。

例えば、先生から授業でプロジェクトを与えられたときはリーダーをやる、後輩の指導を積極的にやるなどです。

このような環境に身を置くことで、自然と責任感が生まれ、自主性も養われます。
一見、短絡的にみると面倒かと思いますが、このような経験が自然と自信に繋がり振り返ってみるとやって良かったなと感じました。

大学入学当初は内向的な性格だったのですが、今では誰とでも話せるくらい外向的な性格にも成長することができました。

それほど大学では自分の考え次第では成長することができました。それほど大

学では自分の考え次第では大きな武器を手に入れられる場所です。
なので、失敗を恐れず挑戦を続けて下さい。
応援しています。

V 東京農業大学 大学院

奨学生の皆さん、昨年末は4年振りの交流会で再開し、お話しをすることができて、大変嬉しかったです。

他の大学生の近況報告を聞くと、みんな様々なフィールドで活躍している！ということを知ることができ、それが私にとってはまた1年頑張れるモチベーションになりました。

先輩として、皆さんに残せることはあまりありませんが…

私が学生生活6年間を通して得た一つの学びをお伝えしようと思います。

それは、「選んだ道が正解かどうかは、そこに入った後の自分次第」ということです。

私は6年前、第一志望ではない大学へと進学しましたが、そこで私なりに頑張っていたら、気付いた時には笑顔であふれる学生生活になっていました。

これから社会人になりますが、選んだ道が正解だったのかはまだわかりません。そこに入社後の自分次第で、正解にも不正解にもなると思います。

選んだ道が正解になるように精一杯頑張っていこうと思います。

後輩の皆さんもこれから就職や進学等で大きな決断をしなければならないときもあるかと思います。

自分が選んだ道を信じて、皆さんらしく頑張ってくださいたら嬉しいです。

いつかまたお会いできる日を楽しみにしております。

W 明治大学 大学院

奨学生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

2023年は数年ぶりに交流会が開かれ、皆さまのご活躍を直接聞くことができ、私にとっても大変励みになりました。

さて、私の友人らはまもなく社会人3年目を迎えます。

友人らはよく大学時代にやっておけば良かったことを話しています。

平日は仕事で手一杯、土日の間にできることも限られているようです。

それに対して学生は比較的自由度も高いため、少しでも興味のあるものには積極的に挑戦し続けていただきたいと思います。

私もやってみたいことや、行ってみたい場所にはできる限りチャレンジしたり、足を運んだりするようにしています。

それが私という人間に厚みをもたらし、自信と深く向き合う機会となっているように思います。

それから現在取り組まれていることについても、より突き詰めていてもらいたいと思います。

それは一つの事に熱中し極めようとした経験からしか得られないものがあると思っていますからです。

様々なことにチャレンジすること、一つのことに熱心に取り組むこと、そのどちらも楽しんでいただきたいと思います。

X 早稲田大学 大学院

私たちの学年は、感染症流行の影響を受け、交流会への対面参加が少ない代でした。

今年度は久しぶりに対面で開催され、同じ修士の奨学生と再会することができました。

大学も学年も専攻も異なる学生たちと一同に会することができる機会は大変貴重ですし、他の場所では得られない経験だと思います。

私も対面で他の奨学生と話すと自分の知らない分野の面白さや価値観に触れることができ視野が広がりました。

また、近況報告では、他の学生の方々の取り組みや努力に毎年「自分もまた一年頑張ろう」と奮い立たされました。

ぜひ、戸田育英財団の奨学生であることを活かして様々な人と交流し視野を広げてほしいです。

より実りのある学生生活になると思います。

Y 早稲田大学 大学院

私は一般的な成功からは正反対の道へと進み始めており、とても誇れた先輩ではないのですが、それでも確かに言えることがあるとすればいつか卒業式で是枝監督が「大学とは自分の負けない城を作る場である」といっていたように、自分なりの思想と信念をどうか手にしていただければと思います。

それは自分のプライドをつくり、そしてもしそれに自覚的であれば、自分の弱み

も攻撃性もあらゆる感情の根源に気がつくことができるのです。

Z 早稲田大学 大学院

奨学生の皆様には一つ、「学問」を大切にさせていただきたいと思います。

学問とは言っても、それはアカデミックに限ったものではありません。

福沢諭吉は「学問のすすめ」で次のように言いました。「大凡世間の事物、進まざる者は必ず退き、退かるものは必ず進む。進まず退かずして滞滞するものはあるべからざるの理なり。」

学問とは前に進むことだと思います。そして自分のうちに自らの「学問」がある限り、その人は時代に負けることなく前に進めるのだと思います。

また大隈重信はこのように言いました。「学問は脳、仕事は腕、身を動かすは足である。しかし、卑しくも大成を期せんには、先ずこれらすべてを統ぶる意思の大いなる力がある、これは勇気である」

皆様には勇気を持って前に進んでいただきたいと思います。

AA 早稲田大学 大学院

「社会人になるまでまだ時間があるからいいや」と後まわしにしていることがあれば、今すぐ行動することをオススメします。

時間は本当にあっという間に過ぎ去ってしまいます。

またコロナ禍のように、急な制限がかかることもありえます。

「思った時にはすぐ行動」をモットーに、残りの学生生活を楽しんでもらえたらと思います。

AB 同志社大学 大学院

私は「仲間との時間を大切にする」という事を伝えたいと思います。

私の大学院生活はほとんど研究室のメンバーと過ごしました。

研究・授業課題、就活など多くの苦難を研究室のメンバーと共に乗り越えてきました。

時には挫折しそうになるときもありましたが、研究室に行けば仲間がいて、どんなにしんどい時も支え合うことで乗り越えて来れました。このような経験から研究室のメンバーは一生の仲間です。しかし就職にあたって勤務地がバラバラとなってしまう、なかなか会うことができなくなってしまいます。

私は、学生最後に研究室の仲間と長期の海外旅行に行くことができ一生の思い出になりました。

そこで後輩の人たちにも、研究室に限らずサークルやバイトといった身近な仲間を大切に、その時その時を大事に過ごして欲しいと思います。